

かつて日本の産業を支え 今は山深く静かに眠る

新しい新居浜 はじめよう！

とうなる

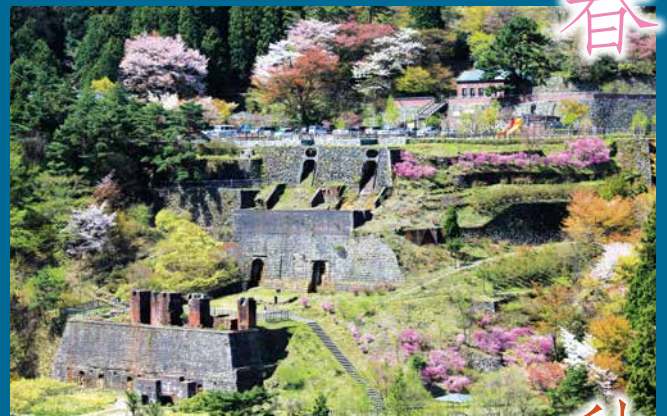
特集

東洋のマチュピチュ 「東平」

昭和48年（1973）に閉山した別子銅山。
大正5年（1916）から昭和5年（1930）まで採鉱本部が置かれた標高750m付近のエリアは「東平」と呼ばれ、銅山関連施設をはじめ、学校、病院、娯楽場、社宅など生活施設も整備されており、一つの“まち”を形成していました。
それら施設の多くは取り壊され、今は植林によって自然に還っていますが、花崗岩造りの貯鉱庫跡や赤レンガ造りの索道停車場跡など、一部が風化の痕跡を残しつつ今も現存しています。
その様子は天空にそびえるようで、「東洋のマチュピチュ」と称されています。



四国八十八景プロジェクトの
四国八十八景第1期選定箇所選ばれました。



春



秋



【東平貯鉱庫跡】

明治 38 年頃建設。選鉱場・索道基地に隣接した重厚な花崗岩造りの建造物。鉱石は、海上遥か四阪島まで運ばれました。



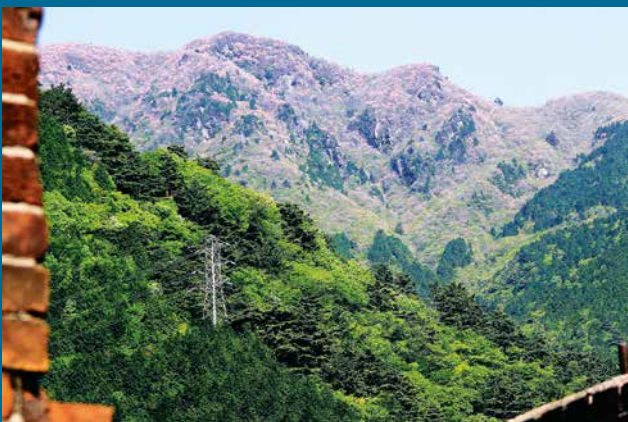
【東平保安本部（現マイン工房）】

明治 37 年頃に設置。明治期は配電所、大正期は林業課事務所、その後は保安本部として活用されていました。現在は、銅板レリーフ体験ができるマイン工房として活用しています。



【東平歴史資料館】

ジオラマやパネル等で、当時の生活文化を紹介するとともに赤石山系の自然や銅製品なども展示。新居浜ふるさと観光大使の水樹奈々さんがナレーションを担当する DVD「天空のまち東平」を上映しています。



【赤石山系の登山の入口】

赤石山系の自然を借景とし、自然環境に恵まれた東平地区は、銅山越や西赤石山への登山口にもなっています。



新居浜



東平の山ふとところに石楠しやくなひの

花ながめつゝ鶯うぐいすを聞く

昭和11年にこの地を土居どいばんすい晩翠が訪れ、東平接待館にて次の歌を詠んでいる。